

## だいず不耕起播種機の作業特性

だいず不耕起播種機を用いると、播種前の耕起・碎土及び中耕培土作業が省略でき、降雨による播種作業の遅れも少なくなり、作業能率 1.7～2.7 時間/ha と省力的に作業できる。また、集団転作等の大規模栽培においては、慣行並～下回る経費での導入が可能である。



NSV400B

NSV600B

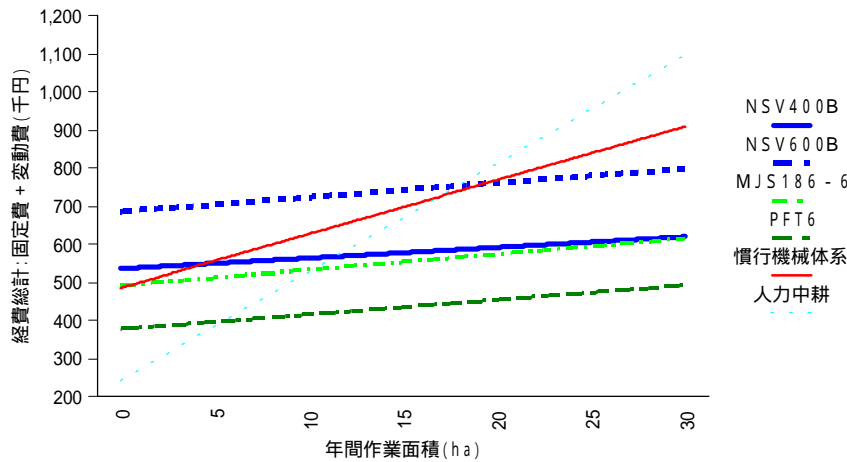
MJS186-6

PFT6

表 だいず不耕起播種における作業特性比較

型式	適正 作業速度 (m/s)	作業 能率 (h/ha)	適応 トラクタ (PS)	年間作業 可能面積 (ha)	条件別作業適応性			覆土 性能		滞水時の影響	
					降雨 直後	残さ 多い	レキ 多い	硬い 土壌	性能	播種期 発芽率	生育期 茎疫病
NSV400B	1.0 前後	1.73	45～	68.5				～	×	×	×
NSV600B	"	2.27	50～	52.0				(秋耕)	(秋耕)	(秋耕)	(秋耕)
MJS186-6	0.8 前後	2.66	26～36	44.5							
PFT6	1.0 以上	2.53	25～30	46.8				～	～		

注) 適正作業速度：播種精度が良好となる速度。(秋耕)：前処理で前年秋に耕うんした場合  
年間作業可能面積：作業期間設定 6 月上中旬、作業可能日数：16.6 日。(盛岡での設定)  
「～×」は慣行(耕起、碎土、播種体系)基準評価【 : 優る、 : やや優る、 : 同等、 : やや劣る × : 劣る】



注) 慣行機械体系は、  
播種：トラクタ用4条  
中耕培土：JK14GT+CA-3  
人力中耕は、  
歩行型管理機で中耕培土  
の設定。

図 だいず作付規模別経費比較